小峰城よもやま話

第二十一話 三之丸門跡の発掘調査

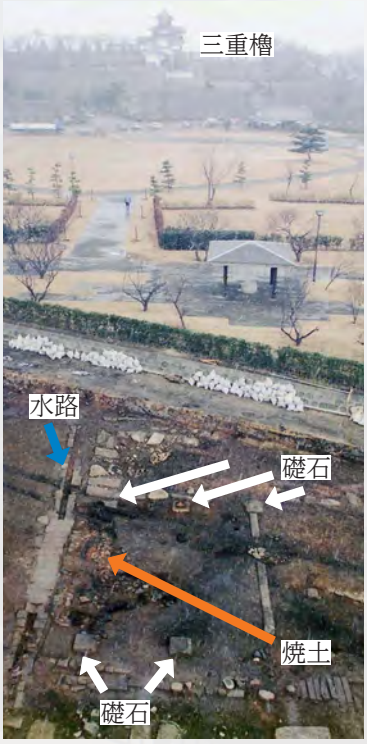
三之丸は、二之丸の外側に位置し、武家屋敷や、時代によっては庭園が築かれた広大な敷地で、各所に門が設けられていました。

三之丸門は、元三之丸の南側に設けられた門で、平成6年度（1994）に発掘調査が行われました。

調査では、門の礎石や石組の水路跡が確認されました。そのほか、焼けた土や木材が広い範囲で確認され、炭になった柱材の一部が礎石の上に乗った状態で見つかりました（写真下）。この状況から、三之丸門は火災を受けたと判断され、文献などの記録から、戊辰戦争白河口の戦いにおいて焼失したと考えられます（写真左）。

また、火災の痕跡とともに多量の瓦が出土しましたが、瓦には赤いものや黒いものなど、さまざまな色や種類が見られ、当時の三之丸門の屋根の様子をうかがうことができます。

三之丸門のあった場所は、明治時代になると、汽車の燃料である石炭の燃えかすの廃棄場として利用されたことが幸いして、焼失した姿が良好な状態で残されたものと考えられます。



▲発掘調査でみつかった三之丸門跡（南から）

▲礎石の上に乗った炭化した柱材

問 文化財課☎㉗2310

渋沢栄一×松平定信 南湖を彩る系譜

第十二回（最終回） 江東区 白河町の成立

東京都江東区に「白河町」という町名があります。関東大震災後の区画整理で、松平定信の墓所がある霊巌寺一帯の「霊巌町」が「大工町」に改称されようとした際、渋沢栄一は、霊巌町は由緒ある名で、東京の恩人でもある定信が眠る地なので、残して欲しいと東京市に要望しました。

昭和3年（1928）、霊巌寺の定信の墓が国の指定史跡となり、定信の百回忌にあたる同4年（1929）5月に、渋沢たちにより楽翁公遺徳顕彰会が創立され、渋沢自らが会長となっています。

戦後の昭和22年（1947）、東京都慰霊協会が設立され、顕彰会の事業を引き継ぎます。定信の慰霊はその後も続けられ、令和3年6月14日で192回を数えました。

慰霊協会は、勝海舟をはじめとする江戸・東京のために貢献した人物を顕彰・慰霊する団体です。七分積金の功績などにより、定信の貢献度の高さは誰もが認めるもので、定信に対する尊敬の念も多大でした。

そのような定信の恩に報いる政策が「白河町」の創設だったのでしょう。昭和7年（1932）5月14日、東京市から深川区（現江東区）に対して「東京市告示第百九十九號」が出されました。これにより、同年8月1日から定信の墓所のある霊巌寺一帯が、定信が藩主をつとめた白河藩の名にちなんで「白河町」となったのです。

渋沢はこの前年の11月に亡くなっていますが、白河町の成立には、楽翁公遺徳顕彰会の建議が容認されたものであると言われています。

▲渋沢栄一葬儀の車列（渋沢史料館所蔵）

▲霊巌寺（『松平楽翁公墓前祭　講演記録集』（公財）東京都慰霊協会より）

（文・中山義秀記念文学館　館長　植村美洋）